

複数武道種目授業

実践の紹介

(最終回)

「武道推進モデル校」事業を活用した

複数種目（剣道・弓道）の実践

石川県宝達志水町立宝達中学校

教諭 中井 秀人

本校は石川県のほぼ中央部、能登半島の付け根に位置し、能登地方の最高峰、宝達山や、車のままで砂浜に乗り入れが可能なお観光道路「千里浜なぎさドライブウェイ」といった山と海に囲まれた自然豊かな地域である。

本校では、武道の授業として長年、剣道に取り組んできており、平成27年度には剣道授業協力者資質向上事業公開研究授業を行うなど、地域と連携してより良い武道授業の実践に取り組んできた。

令和2年度には標記事業を剣道授業において、さらに令和3年度には多様な武道指導の充実・推進モデル校として、剣道と弓道の複数武道種目を実施した。

本稿では剣道と弓道の複数武道の実践について紹介したい。



校舎全景

1 はじめに

本校は全校生徒287名、通常学級各学年3学級の小規模校である。

少子化のあおりを受け、急激な生徒数減少に伴い、平成27年度には二つの中学校が統合し、宝達志水町立宝達中学校が設立された。生徒は素直で明るく、校訓「自主」

「剛健」「敬愛」の下、現在は「21世紀をしなやかでたくましく生きるため、さらなる高みを目指して何事にも取り組む生徒の育成」を目指し、文武両道で勉学に励んで



【弓道】実技の見学

いる。

本校では、武道の授業として長年にわたって剣道に取り組んできた。開校した27年度には、剣道授業協力者資質向上事業公開研究授業を行うなど、地域と連携した取り組みを進めてきている。

令和3年度には複数種目の武道実践に取り組み、従来の剣道に加え、弓道の授業に挑戦した。剣道の授業は宝達志水町剣道協会の北川信之先生、弓道の授業は宝達志水町弓道協会の山田敏寛先生を講師に迎え、より専門的な指導をいただき、深い学びにつなげることができた。礼儀作法や武道の伝統的な考え方や行動の仕方について、剣道と弓道を比較しながら学習を進め、「武道の特性に触れ、武道の楽しさを実感できる授業の展開」をテーマに本事業を進めた。

2 武道学習の指導計画

指導計画を立てるにあたり、事前に講師との打ち合わせを行った。学校行事の関係から11月に武道授業を計画し、弓道を3時間、剣道を7時間の計10時間とした。剣道授業については、単元の最後

令和3年度 武道授業単元計画

種目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	弓道			剣道						
	導入（健康観察・準備運動・課題の確認・本時の見通し）									
学習の流れ	オリエンテーション	実技見学	基本動作の学習	オリエンテーション	剣道具の装着					
	基本動作の学習	弓を引く学習（動画撮影・動きの確認）	基本動作の学習	基本動作の学習	基本動作の学習					
	基本動作の学習			基本動作の学習	簡易試合					
	まとめ（後片付け・本時の振り返り、次時の連絡）									

に「攻防の展開」を目標とし、打ち合わせを行った。これまでの授業や指導の積み重ね、講師の先生が中学校の元保健体育科教員ということもあり、スムーズに進めることができた。授業では保健体育科教員が全体指導に当たり、講師の先生には生徒の個別指導をお願いする形とした。

弓道については、「正しい射法八節で弓を引く」を目標とし、打ち合わせを行った。講師の先生からは、弓を射るまでには多くの時間が必要であることなどの助言をいただき、生徒が充実感や達成感を得るために、講師の先生を増員する形で了解をもらった。弓道授業は、剣道授業とは逆に、講師の先生の指導に保健体育科教員が個別指導に当たる形で行った。

3 実践内容

(1) 弓道の実践

生徒への事前アンケートでは、弓道の認知度は高く、弓道授業に興味を抱く生徒が非常に多かった。さらに弓道の大会の様子や芸能人が弓道で競い合う番組を動画で視聴し、意欲を高める工夫をした。

1時間目のオリエンテーションでは、弓道の成り立ちや礼法、弓道具の説明を行った。さらに、講



【弓道】ゴム弓での学習

師の先生が作ったゴム弓を使った射法八節の基本動作の説明と実技を行った。

2・3時間目は、地元の町武道館弓道場へ移動し、凛とした雰囲気の中で授業を行った。初めに講師による模範演武が行われ、美しい作法と姿勢、弓や矢が放つ音や的を射る音を感じ、的を射た時には生徒から大きな歓声が沸き起こっていた。その後、ゴム弓で



【弓道】実技体験

の射法八節の復習と通常より近くに置いた大きな的に向けて、弓を射る体験を行った。

町弓道協会からの3名の講師の補助により、生徒は安全に何度も挑戦し、全員が的を射ることができた。講師の先生の子や孫が授業を受けていたこともあって、和やかな雰囲気での授業となった。最後は保健体育科教員が補助なしで挑戦し、失敗に終わると生徒から大きな歓声が上がった。

(2) 剣道の実践

剣道は1年時から継続して取り組んでいる。事前アンケートでは

「暑い・寒い」「臭い」「痛い」「怖い」といったマイナスイメージがあった。講師の先生からは「楽しく、またやってみたい」と思ってもらえる授業をやる」との提案があり、シューズを着用した実践にも挑戦した。

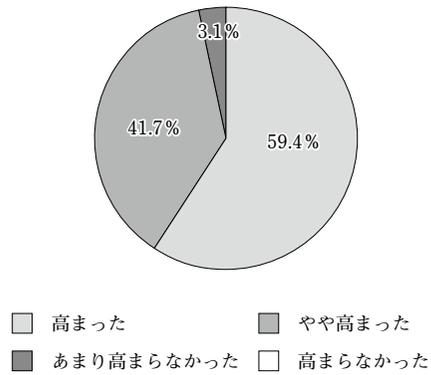
単元の序盤には、出来栄を競い合う簡易試合、中盤からは有効打突を競い合う簡易試合を行い、攻防の楽しさを味わう場を設定した。生徒は大きな声で相手に向かって打ったりかわしたりする攻防を楽しみ、簡易試合後の相互の礼の後には、自然と生徒同士が握手して互いを称える姿が見られた。



【弓道】動画の撮影と確認

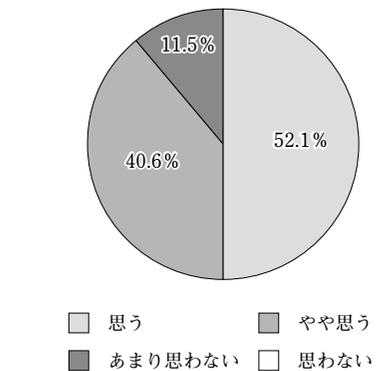


【剣道】実技指導



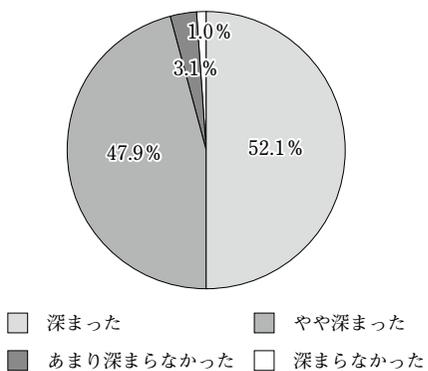
① 2種類の武道を学習したこと
で、武道への関心は高まりましたか。

・弓道に必要な集中力は、勉強や部活動に生かせることがわかった。
・武道は礼儀や作法、姿勢、美しい動きを重視していると思った。
・弓道は自分自身と戦い、自分を成長させるということがわかった。
・武道が由来の言葉がたくさんあることがわかった。



② 2種類の武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。

③ これからも多くの武道種目を学習したいと思いますか。



【剣道】外部指導者の助言



【剣道】剣道具の着装の指導



【剣道】胴打ち



【剣道】刃筋に関する指導

(2) 課題

▽講師陣の本物の動きを肌で感じたことで、生徒の学習意欲は向上した。専門家からの指導や助言は生徒の心に響き、達成感と向上心に繋がっていた。

▽剣道での「相手との攻防」に対して抵抗感のある生徒も、弓道では「自分と向き合うこと」と捉え、意欲的に武道の学習に取り組むようになった。

▽武道の学習をさらに深めたいと考える生徒に対して、弓道と剣道の単元計画の見直しを図るとともに、地元の弓道協会や剣道協会と連携をとり、地域で活動できる体制づくりを進める必要がある。

5 成果と課題

(1) 成果

▽複数の武道を経験することは、それぞれの武道の歴史や特性を比べながら学習する機会となり、学校体育で扱われる意義についても生徒がより深く理解できたように感じた。

▽学習における生徒の満足度を高めるために、対象学年や指導内容、時間配分、外部指導者の人数、弓道具の数などの改善を図り、外部指導者との綿密な打ち合わせによって決定する必要性を感じた。

4 生徒の感想とアンケート

(1) 生徒の感想

・武道はとても厳しいと思っていたけれど、実際にやってみるととても楽しかった。
・武道を体験してみると、相手や仲間、協力者がとても大切であることがわかった。

剣道授業の最後には、講師の先生から生徒に向けて「剣道は相手がいて、自分が上手くなる」とのお言葉をいただき、学校生活のその他の場面でも他者を意識することや感謝の気持ちを持って行動してくれるようになったと感じた。

(2) 視聴覚機器を使用した意欲付けと正しい動き作り

(3) 効果的に指導するための工夫

① 指導内容の厳選
生徒の充実感を第一に考え、弓道では「弓を引き、的を射る」と、剣道では「攻防を展開すること」を目標にして、指導内容の厳選を行った。

② 視聴覚機器を使用した意欲付けと正しい動き作り

③ 場の工夫
弓道では町の体育施設である弓道場、剣道では同じく剣道場で授業を行うことで、普段とは違う緊張感と雰囲気を感じることが狙った。また、各協会から複数の指導員の協力を得て、目標の達成に向けて効率的な授業展開を図った。

導入時に武道の動画を視聴することで、武道に対するイメージ作りや動作の連続性などを確認し、意欲の向上を図った。単元の中盤からは、タブレット端末を使用した動画撮影により、姿勢や動きを確認することで、自分の動きの確認と課題の発見に繋がった。